

荒小 P 連とは…
区内 24 校の小
学校 PTA で構成
される連合会です

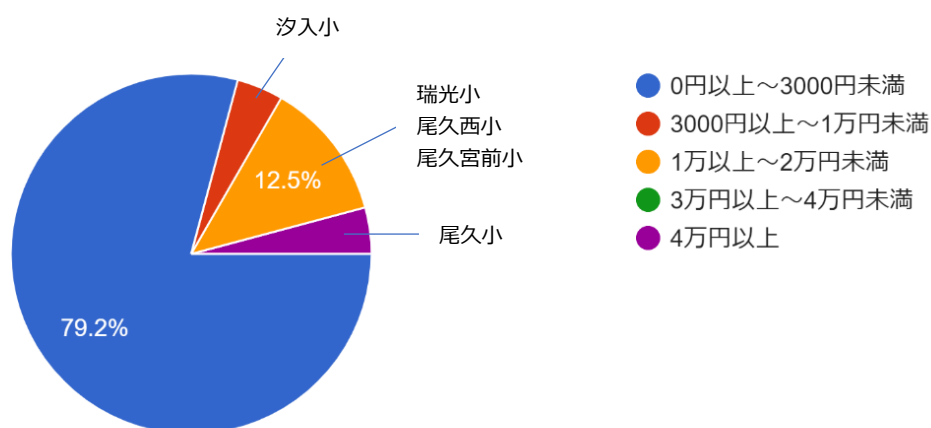
荒小 P 連だより 令和 2 年度 冬号

発行責任者 荒小 P 連会長 中澤 礼子 / 編集 荒小 P 連広報部

令和 2 年度は「コロナ」をきっかけに多くのことが一変した一年でした。人と人との接触を極力避けることが叫ばれ、社会全体でデジタル化の動きが進んでいます。教育現場においても長期休校を経験し、学校と保護者とのスムーズなやり取りのため、押印の省略、デジタル化を推進する文書が昨年 10 月に文科省より発表されました。

それを受け、荒小 P 連では区内 24 校を対象に ICT 化アンケートを行いました。活動の効率化、活性化のために荒小 P 連として取り組むべきことは何なのか、アンケートをきっかけに考えていきたいと思います。

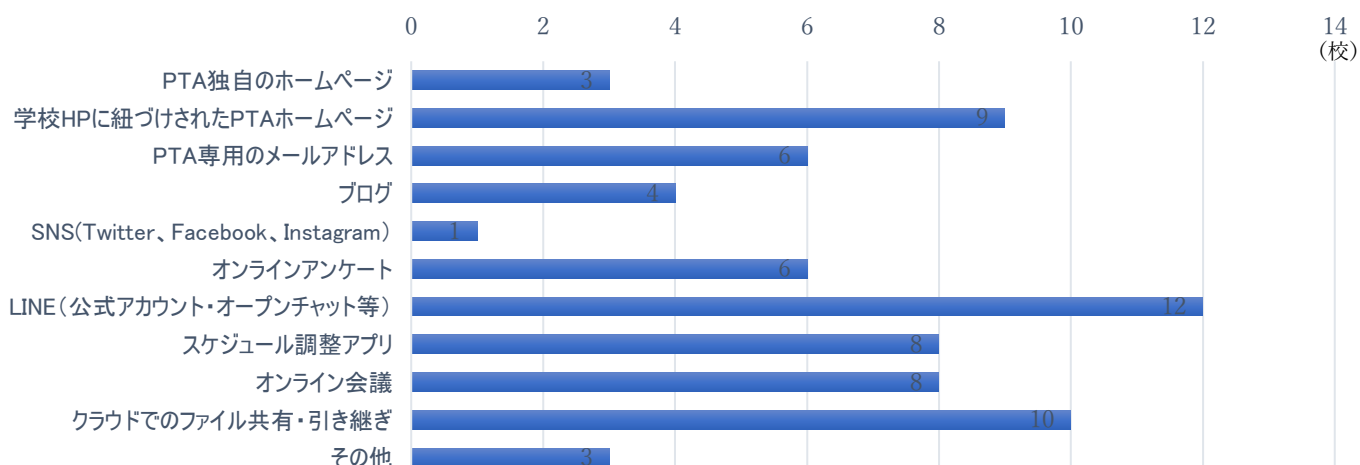
IT 関係にかかる年会費



◆3000 円以上の使い道としては、独自 HP の運営費（汐入小・尾久宮前小）、有料版グループウェア（瑞光小）、学校での Wi-Fi 通信費（尾久小・尾久西小）

ICT 活用状況

ICT活用状況(回答24校)



◆ICT 導入して良かった点

◎PTA ホームページ、ブログ活用

- ・PTA 独自の HP を開設し、活動報告などの紙配布を廃止したため、印刷配布の手間がなくなった。また、学校を介さずファイルをアップロードできるようになったので先生への連絡やお願いの手間がなくなった。（尾久宮前小）
- ・一斉に連絡が取れる。校庭開放の中止連絡にもブログを活用している。（四峡小）

◎オンラインアンケート

- ・従来の紙よりオンラインアンケートのほうが効率化がはかれた。また、回答数が少し増えた。（二日小）
- ・Google フォームによる総会、役員募集アンケートなど、保護者からは好評で役員の手間も省ける。（ひぐらし小）

◎オンライン会議

- ・オンライン会議の導入で、緊急事態でも役員会などが開催可能になった。（ひぐらし小）
- ・コロナの影響で活動がほぼすべてできず、実行委員会も中止せざるを得ず、役員だけで集まる機会も非常に少ない年となった。それでも役員間では LINE と Zoom に頼りながら何とか進めている。この 2 つは費用がかからないのが一番有り難いことで、またオンタイムでのやり取りが可能なので便利に使っている。（尾久六小）

◎クラウドでのファイル共有・引き継ぎ

- ・オンラインストレージの導入で、最新版の置き場所が統一され、誰の USB が最新なのか調査する必要がなくなった。（六日小）
- ・文書ファイルの受け渡しが効率化でき、校閲作業でも関係者間での意見のやり取りが全員に見えるようになり、ファイルの取り違いなども無くなり、次年度に引き継ぐファイルなども簡単に保存、管理できるようになった。（瑞光小）

◎その他（グループウェア活用）

学校および P T A の年間の活動予定や行事に合わせて予定や行事を作成し、その予定や行事が近づいたら、その予定や行事に関わる役員や正副委員長をその予定の参加者に加えることで、関係者間での連絡やファイルのやり取りなどが、その予定への書き込みやファイルのアップロードを行うだけで、関係者全員と共有できるようになった。更には、スマホのアプリには、自分が関わっている予定に何か更新された際はその通知が来るため、確認のし忘れなども防げるようになった。（瑞光小）

アンケート結果より

アンケート結果を受け、荒小 P 連会議では何らかの ICT を活用している学校が多いものの、ほとんどが無料サービスであることが話題になりました。

PTA はボランティアなので、作業の効率化、役員の負担軽減のために運営側がやりやすい方法、ツールを入れてよいのではないか？という意見が出る一方、保護者によって通信環境や通信媒体が異なる（PC はもちろん、スマホを持っていない方もいる）ため、その方への対応をどうするかという検討は必須です。また、「導入したくてもやり方がわからない」といった技術面での課題も 14 校（24 校中）が挙げており、導入や継続のためには運営側のスキルアップが求められているのも事実です。

教育現場においてデジタル化が推進されている今、PTA にも ICT を浸透させるにはそういったソフト面、ハード面の行政のサポートは鍵になっていくでしょう。個別の事例から、共通性を見つけ、行政に提案していけるよう、次年度に引き継いでいきたいと思えます。

しかしながら、学校の規模、地域性など、学校によって PTA のあり方は様々であるべきです。ICT 化は全校導入がゴールではありません。「自分たちはどのように活動していきたいのか、そのためには何が必要なのか」を各校で検討し、自校に合った ICT 活用を検討していくことが大事なのではないかと感じました。

（了）

